

私の思い出写真館

『奉仕の精神』と『常に備えよ』



上村 多恵子

京南倉庫
取締役社長

小学生時代は自分の身の回りのことも十分で
きなかった私でしたが、中学生になって入団し
たガール・スカウトで徹底的に鍛え上げられま
した。ノートルダム女学院のクラブ活動とし
て、京都十三団は学校の中にありました。先生
方がリーダーとなり上級生も身近にいて、生活
面を含むご指導を受けました。主には、キャン
プ研修、救命活動研修、老人慰問のボランティ
ア活動等を中心とした企画・計画・準備・実施で
す。活動のトレーニングもきめ細かく、例えば
15分以内でのテントの張り方、雨の中でマッ
チ三本までの火のおこし方、野外でのトイレも
作りました。その他、手旗、モールス通信、
キャンプファイヤー、ゲーム等を通じ内気だっ
た私が明るく元気になりました。

右上の写真は、1969年16歳の夏に日本代表と
して、カナダのカルガリーで開かれたジャンボ
リーに参加するために出発する時の一枚です。
世界のガール・スカウト、ボーイ・スカウトの
大会で、国際交流を経験させていただきました。
もう一枚はお隣のブースのイスラエルから
のボーイ・スカウトと一緒に撮影したもので
す。初めて海外へ行き現地で生活をして奉仕活
動の大切さ、国際社会の複雑さについて、身を
もって学ばせていただきました。ガール・スカ
ウトのモットーは「常に備えよ」です。いかな
る非常時をも予想して準備する必要があること



イスラエルのボーイ・スカウトと一緒に



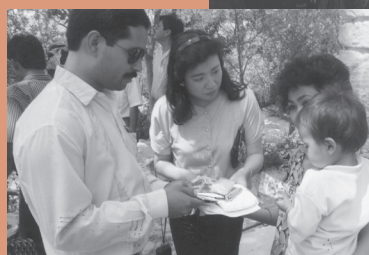
カナダへ出発前

を具体的に教えられました。

仕事をするようになってからは青年会議所
の中で奉仕活動をしてきました。1983年にはユニ
セフを通じ、ネパールの乳幼児の死亡を少しで
も防ぐため対策団に入り、ワクチンを常に備え
てもらうための配布活動に参加しました。世界
にはまだまだいろいろな国があり、日本の手助
けが必要とされる思いでいっぱいでした。

その後、母校の甲南大学の創立者、平生鈺三
郎先生の伝記を書くことになりました。人生を
学ぶ時代、働く時代、奉仕の時代と三分論に分
け、実業家、教育者、政治家、社会奉仕家と多
面的な顔を持つ平生先生のモットーも「常に備
えよ」でした。関東大震災や神戸大水害も経験
しての重い言葉です。東日本大震災後あらため
て、奉仕の精神と常に備えることの大切さを痛
感しています。

- ▶ネパールの
ユニセフの方々と
- ▼ネパールの村で
衛生指導



▶平生先生の碑「常に備えよ」

